

いごいのみぎわ  
天路歷程 ジョン・パニヤン

第35話

2022年7月17日～7月23日 各家庭でのディボーション用テキスト

彼は道々歌って言った、

げに信仰者よ、君は信深く  
君の主に信仰を告白した。  
不信の者、その虚しい快樂をもって  
地獄の境界に泣き叫ぶとき、  
君は主にあって祝福を受けよう。  
歌え、信仰者よ、歌って名を後に残せよ。  
人は君を殺しても、君はなお生きるのだ。

さて、私が夢で見ていると、基督者は一人で進んで行くわけではなかった。有望者という名の者が（市場での基督者と信仰者の言動と受難を見て希望を抱くようになって）彼といっしょになり、兄弟の契りを結んで、道連れになろうと語った。こうして一人は死んで真理への証しを立てたが、また一人がその灰の中から甦って、基督者の巡礼の道連れとなったのである。この有望者は基督者に語って、市場の人々の中には折を見て彼の後に従おうとする者がまた沢山あると言った。

こうして私が見ていると、彼らは市場から出るとじきに前に行く人に追いついた。その人の名は私心者であった。そこで二人は彼にどこのお国の方でしょうか、どこまでお出でになりますかと聞いた。彼は二人に答えて、自分は巧言町から来たもので、天の都へ行こうとしていますと言った（が、自分の名は告げなかった）。

巧言町からですって【箴 26:25】、と基督者は言った、そこにはだれか善い人が住んでいますか。

私心者は言った、はい、いると思います。

失礼ですがお名前は、と基督者が尋ねた。

**私心者** あなたも私もお互いに他人です。もしこの道を行かれるならば、喜んでお供しましょうが、さもなければ、一人でもしかたありません。

基督者は言った、この巧言町のことは私も聞いたことがあります。何でも私の記憶しているところでは、富裕な町だそうですが。

**私心者** そうです、確かにそのとおりです。私もそこには沢山金持の親戚がいます。

**基督者** 失礼ですが、お差支えなかったら、ご親戚というのはだれでしょうか。

**私心者** ほとんど町中の人です。とくに、移氣（うつりぎ）侯、日和見（ひよりみ）侯、巧言侯（このお方の先祖から初めあの町の名をとったのですが）、また円滑氏、二心氏、何でも御座れ氏、また私たちの教区の牧師である二枚舌氏は母の腹

違いの兄弟です。それで実を申せば、私は身分のよい紳士となっていますが、私の曾祖父（ひいじじ）はただの船頭で、一方を向きながらそれと違った方向へ漕げる人でした。私の身代も大部分は同じ仕事でもうけたものです。

**基督者** あなたは家庭をお持ちですか。

**私心者** はい、私の家内は実に貞淑な婦人で、貞淑な婦人の娘です。伴装（みせかけ）夫人の娘なので、非常な名門の出です。非常に高い教養に達していますので、王侯でも小百姓でも、どんな人の前に出ても、振舞う道をわきまえています。なるほど厳格な向きの宗教とは幾分異なっていますが、それはほんの二つの小さな点だけです。第一に、私たちは決して世の風潮にさからわないことです。第二に、私たちは宗教が景気がよくて銀のスリッパをはいているときにはいつも一番熱心です。日が照って、人々が宗教をもてはやすなら、それといっしょになって街を歩くのが大好きです。

そのとき基督者は少し側によって仲間の有望者に言った、これは巧言町の私心者という人のように覚えています。そうだとすれば、私たちはこの界限に住むしたたかな悪党と道連れになったわけですよ。すると有望者が言った、聞いてご覧なさい。自分の名を恥じはしますまい。そこで基督者は再び追いついて言った、あなたは事柄によっては、世間のすべての人々より物知りなようなお話し振りですね。見当違いでなければ、ほぼ察しがついたように思われます。お名前は巧言町の私心氏ではありませんか。

**私心者** これは私の名ではありません。実は、だれか私に我慢のできない人がつけたあだ名です。それで私は仕方なしにそれを非難として我慢しているのです。ちょうど私より以前にも他の善人たちが我慢したようにね。

**基督者** ですが、人からそんな名前と呼ばれるような事をした覚えはないのですか。

**私心者** いやもう決して。私がこういう名で呼ばれる覚えのあることといったら、せいぜいこんなところですよ、つまり当時の時代風潮がどんなものであろうと、私の意見はいつも運よくそれと符合したことで、たまたまそれで得をしたというわけです。しかしいろいろな物がこんなふうには舞い込んでくるなら、それはありがたい授かり物と考えたいですね。そのために意地悪連中から非難を浴びせかけられるのはご免ですよ。

**基督者** 実際あなたはうわさに聞いていた方だと思いました。私の思うとおりを申し上げると、この名はあなたが望まれる以上にあなたにぴったりではないでしょうかね。

**私心者** なるほど、そのように想像なさるといふなら、しかたはありませんよ。もしまたお付き合いを許して下さるなら、私も相当な仲間だということが分かりましようがね。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい